

平成15年7月11日

平成15年度 第1回 東京都農林水産技術会議水産試験研究・内部評価委員会報告

東京都水産試験場

平成15年度第1回東京都農林水産技術会議水産試験研究評価部会に先だって、16年度新規研究課題(下記4課題)についての内部評価委員会を平成15年6月9日に開催しました(内部評価については、平成15年6月23日より施行された「東京都水産試験場内部評価委員会運営要綱」に基づいて実施しています)。

記

- (1) エコツーリズム推進研究
- (2) 内湾バイオマスリサイクル研究
- (3) 「アユネット」による江戸前アユ復活研究
- (4) フクトコブシ養殖の生産性向上試験

1. 評価の項目と基準

評価項目と評価基準は表1の通りです。

表1. 評価項目と評価の基準

評価の項目	評価の視点	評価の基準
【地域性】	都水産試験場として相応しい研究か	A: 取組む必要性が非常に高い B: 取組む必要性がある C: 取り組む必要性について検討を要する D: 取り組む必要性がない
【公共性】	研究目的や結果が行政の推進に寄与するか	A: 非常に寄与する B: 寄与できる C: 寄与が期待できる D: 寄与しない
【緊急性】	社会的ニーズに的確に対応した研究か	A: ニーズが高く緊急性がある B: ニーズが高い C: ニーズが予測される D: ニーズは認められない
【実用性】	実用化の可能性が高い技術開発か	A: 実用性が非常に高い B: 実用化が期待できる C: 将来化が困難である D: 実用性がない
【計画性】	研究期間や研究手法は適切か	A: 計画性が非常に優れている B: 特に問題はない C: 一部計画の見直しを要する D: 計画性がない、不適切な計画である
【経済性】	費用対効果はどうか	A: 費用対効果が非常に高い B: 費用対効果がある C: 費用対効果が不十分である D: 費用対効果がまったくない

## 2. 評価の方法

内部評価委員会は委員長を水産試験場長とし、委員は水産試験場幹部職員（14名）で構成します。評価については、提案された研究課題について事前評価 中間評価 事後評価 達成状況評価と行います。今回行ったのは、このうちの事前評価です。

## 3. 内部評価の結果と措置状況

### (1) エコツーリズム推進研究

[研究期間] 平成16年4月1日～平成20年3月31日（5年間）

[研究の目的] 世界遺産候補にあげられている小笠原諸島でのエコツーリズムを成功させるためには、地域の特色ある自然に関する豊富な研究成果があること、エコツアーと研究機関が連携することが必要である。そこで、カサガイ、モクズガニ、オカヤドカリなど小笠原諸島に特徴的な水生生物の生態を解明して各方面に成果を提供する。

[総合評価] (C)

内訳（地域性：B、公共性：B、緊急性：C、実用性：C、計画性：C、経済性：C）

[総合所見] エコツーリズムは新しい観光形態として都も推進しており、本研究はガイドマップ作成やガイド育成に役立つと考えられるが、小笠原におけるエコツーリズムの全体計画、関係機関との連携等が不明確のうえ、調査対象種、調査内容等の精査が不十分であり、研究内容の整理が必要である。

[措置] エコツーリズムの全体計画が未定であることから、16年度新規課題予算要求は見送る。小笠原におけるエコツーリズムの全体計画が明らかにされた時点で再度、対象種や調査内容など含めて計画し直す。従って、今回の評価部会への提案は見送る。

### (2) 内湾バイオマスリサイクル研究

[研究期間] 平成16年4月1日～平成20年3月31日（5年間）

[研究の目的] 東京湾の水質浄化を実現するために、海藻類、貝類、底生生物のろ過食機能を活用し、それらの生息環境改善も含めた総合的な浄化プラント化を研究する。また、水質浄化の副産物として生産される水産物を島しょ養殖業へ有効に利用するなど、東京湾の栄養塩類を活用したバイオマスリサイクルシステムを構築する。

[総合評価] (B)

内訳（地域性：B、公共性：B、緊急性：B、実用性：C、計画性：C、経済性：C）

[総合所見] 東京湾の水質改善に生物が持つ浄化機能を活用する視点は評価される。しかし、研究内容が総花的であり、既存の成果を活用し具体的成果が期待できる項目に焦点を絞るべきである。本研究を実施するには関係各局が一体となった取組み体制の構築が不可欠であり、早急に関係局との連絡協議会（仮称）を立ち上げ、研究計画の理解と協力を得て試験区域や規模等具体的研究内容を詰める必要がある。

[措置] 関係する港湾局、環境局などとも協議して試験区域や規模も含めて、研究内容を絞り込むと同時に、課題名を「水産生物による東京湾奥の水質浄化研究」として評価部会へ提案する。

### (3) 「アユネット」による江戸前アユ復活研究

[研究期間] 平成16年4月1日～平成20年3月31日（5年間）

[研究の目的] 多摩川水系（奥多摩、秋川、多摩川中下流域）において江戸前アユの資源量増を実現して遊漁者の要望に応えるとともに漁業者、漁協、市区町村、一般都民と連携して「アユネット」を構築し、「海と川をつなぐシンボル」としてのアユ

を通して、多摩川の河川環の改善を実現し、都民が身近にふれあえるアメニティーの場を提供するとともに、あわせて流域の漁業振興、観光振興に貢献する。

[総合評価] ( B )

内訳 ( 地域性 : B、公共性 : B、緊急性 : B、実用性 : B、計画性 : B、経済性 : B )

[総合所見] アユを清流のシンボルとし、モデル河川に指定されている多摩川で総合的に取組む意義は大きい。目標値と既存の成果を反映した課題の設定により、資源増大への提言に結びつける必要がある。また、「アユネット」構築のためには関係団体等との情報交換を進め、共通意識の醸造を図ることが大切である。本研究の実施に当たっては、奥多摩分場を含め水試の内水面に関する課題の整理と実施体制の再編を行う必要がある。

[措置] 現在、策定中の 16 年度以降の水産試験研究計画 ( 中期研究計画 ) に沿って、アユに関する研究課題の整理も視野に入れて、課題名を「江戸前アユの倍増研究」として評価部会へ提案する。

#### ( 4 ) フクトコブシ養殖の生産性向上試験

[研究期間] 平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日 ( 5 年間 )

[研究の目的] 八丈島の養殖環境特性を考慮してフクトコブシ陸上養殖の事業化を目指し、養殖期間の一部は海面での垂下式カゴ養殖も組み合わせた生産性の高い養殖法を試験する。

[総合評価] ( B )

内訳 ( 地域性 : B、公共性 : B、緊急性 : C、実用性 : B、計画性 : B、経済性 : B )

[総合所見] 既に完成したトコブシ養殖の基礎的技術を活用し実用化を目指した取組みは評価するが、実用化のためには地域事情等も考慮した事業計画まで検討する必要がある。本試験を栽培漁業センターが生産した種苗の有効活用や新たな産業育成を目標とすれば、農林水産振興財団と共同研究の構築が可能と思われるので検討されたい。また、海面養殖は突発的気象変化による被害等への対応策を考えておく必要がある。

[措置] 八丈島の気象・海象特性を配慮して、陸上と海面での養殖を複合した養殖システムのメリットが明確となる研究課題設定をして評価部会へ提案する。